

第2回「寒河江市学校施設整備計画」保護者向け説明会 質疑応答

会場：市民文化会館

日時：令和4年11月10日（木）19時30分から21時00分

参加人数：23名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐（兼）係長

学校再編整備室 学校再編整備係主任

（学校教育課長）

事務局からお願いがございます。説明会の意図として、多くの方からご意見をいただきたいのでご発言をお願いします。小・中学校の検討案について、いろいろな面からご意見をお願いしたいと思います。質問からお受けしたいと思います。質問のある方よろしくをお願いします。

（発言者A）

質問も中に入るかもしれませんが、思ったことを申し上げます。まず、連日の説明会、本当にお疲れさまです。さまざまな分野の方が参加されたあり方検討委員会で2年半という長期間にわたって検討された答申を踏まえ、さらに教育委員会で検討を重ねられた案であるということ尊重して、中学校はA案が個人的にはいいのかなと思っています。ただ、B案の公共施設の複合化もあわせて、深みをもたせるのもいいのかなと思っています。各案ともメリットとデメリットがあると思うのですが、メリットの効果を最大限に発揮できるように取り組んでいくことが大事だと思いますし、デメリットの部分で、例えば、いじめ問題等があげられていましたが、そうした点については、ソフト面で十分に対応していただければと考えます。コストはなかなかかけられないということで、やはりコスト面の議論は非常に重要な議論だと思います。そうした中で、子どものこととか、学校再編の中で最も影響を受ける、子育て世代の幼稚園のお子さんをもつ保護者の方々とか、そうした世代の方の意見を優先的に拾い上げていただくのが大事なのかなと思います。地域の元気がなくなるとかありましたが、そもそもそれを学校の存在に押し付けるのはどうなのかなと個人的に思っておりまして、そうしたことは、別の地域活性化の方策があると思うので、教育委員会さんというのではなくて、例えばそこに住んでいるというのは、そこに仕事やそこに住む理由があるので住んでいるわけで、産業振興とかそういったところで中心に取り組んでいくべきだと思います。あと、地域のよさを学ぶという点では、学区といいますか、フィールドが広がって、別の地域のよさも学べるというのはメリットであると思います。寒河江市全体のことを学べるメリットもあると思っています。あと、話がとんでしまうかもしれませんが、寒河江市外、県内では中高一貫校の取り組みが進んでいまして、教育、人材育成の競争に負けないような力強い教育環境への取り組みが必要なのかなと思っています。今後、どう

いう風に議論が進むのかわかりませんが、中高一貫とかの考え方とか、教育委員会と県教育委員会の議論になって、範囲をオーバーすることもあるかもしれませんが、ニーズは高まっていくと思いますので、そうしたところの資料も必要かなと思います。あと、部活動の移行についても、なかなか具体的なことが示されていないということがあると思うので、喫緊の課題もあろうかと思いますので、忙しいところと思いますが、よろしくお願ひしたいなと思います。

質問で、子どもたちが減っている学区では、他の新庄市とかは小中一貫の話もあるわけですが、この議論の中でそうした案がでてこない理由、こういったデメリットがあるので小中一貫校は取らないで中学校1校に統合するとか考えがあれば教えていただきたいと思います。

(教育長)

ありがとうございます。質問からお答したいと思います。小中一貫校については、あり方検討委員会でも議論されました。その中で、児童生徒数の問題がありました。小中一貫校をある地域で作っても、中学校が学年で1クラスの数しかいないとなると、いろんな活動に支障がでるのではないかと、では、ある程度の人数と考えると学区の編制を考えてしなければならないと、そういった面で検討されて、基本、今までの歴史もあるので学区編成替えは行わない方がいいだろうと検討されました。小中一貫校を導入した場合、学校間の不均衡がさらに大きくなるのが懸念され、本市の現状から見て、なかなか難しいのではないかと結論になりました。

前半部分で、さまざまな面からご意見いただきありがとうございます。おっしゃられましたように、どういう案にしても、メリットと課題があると思います。私たちがメリットを最大に活かすという方向で、課題についてはカバーしていく方策をとっていくと考えているところです。

部活動についてですが、全国的に令和5年度から3年間を移行期として、令和8年度には休日の活動については地域に移行するというところで検討が進んでいきます。都会と地方では条件が違いますので、それぞれの市や町のやり方がでてくると思うのですが、寒河江市としても保護者代表の方や総合スポーツクラブの代表の方等、いろいろな方に集まっていただき、どういうふうに移行していくか検討しているところです。部活動について詳しくお話させていただくと、山形県では昨日の新聞にもありましたが、部活動そのものは平日のみ行う、土曜日の活動はスポーツ少年団やクラブに移行していくという方向性が出されました。例えば、ある生徒が平日はバスケット部に入ってバスケットをやる、そしてもっと技術を身に付けたいので、休日はクラブに入ってバスケットをやるという場合もあると思いますし、平日は学校でバスケットをやるけれども、土日はゆっくりしたいのでクラブには入らないということもあると思います。また、平日は自分が好きなことをやりたいので部活動には入らないけれども、土曜日だけバスケットのクラブに入るということもあると思います。また、運動好きな子は、平日は部活動でバスケットをやるけれども、野球もやりたいので土曜日は野球のクラブに入るというパターンもあると思います。また、自分は好きなことをやりたいので、平日の部活動にもクラブにも入らないというお子さんもでてくるのかなと思います。そうした

いろいろな活動のしかたが考えられると思います。私たちとしては、子どもたちが、なるべくやりたい活動をやれるような環境を整えたいということで、これから各種スポーツ団体、スポ少の方、文化関係の方に集まっていただき、協力をお願いしていく段取りをしています。

(学校教育課長)

ありがとうございました。その他、ご意見ご質問等お願いします。

(発言者B)

2年間の長い期間、有識者との打ち合わせとかそういったことも含めて進められてきたのは、大変なことだったと思うのですが、今の時期に統合を行ったとして、将来的に人数が少なくなったと考えたときに、今後、小学校の再編も考えていると思うのですが、具体的にそのへんの時期とかそういったところも含めての予想といいますか、20年後とか、今後の例えば柴橋小の学級数、1学年1クラスになってきていまして、そういったことの予想も並行してされているということでしょうか。

(教育長)

あり方検討委員会では、寒河江市内の小中学校をどうしていくかということで、いろんな面から検討されました。今日の資料で言いますと、1枚目の裏のところの整備計画のロードマップを見ていただきますと、まずは複式学級ができていくところの解消、次になるべく学年で複数の学級をとという答申に基づき、西根、三泉の統合、白岩、高松、醍醐の統合、その後この2校の統合という計画となりました。ただ、寒河江小と南部小、寒河江中部小と柴橋小をどうしていくかというのも、いろいろ話し合われたわけです。例えば、私も柴橋なので、柴橋小学校のことはよくわかっておりますが、今、2学級あるのが2つの学年だけという状況になってきていますし、今後も減っていくんですね。そうした時にどうしていくかということについては、現在の計画では、令和13年度あたりに検討を開始しようということでございます。そもそも、この計画については、人口の減り方、子どもの減り方が予想できないところがあるわけです。そういったことも踏まえて、社会の状況も見ながら、5年ごとに見直すということが前提にあります。今後、柴橋小については、ここにありますように、別の学校と統合するというのも1つの案でしょうし、また、地域として1学年で1学級になるけれども、是非ここは残してほしいというご意見が多いということがあれば、そういった案も検討していくということで、現在のところでは、柴橋小、南部小、寒河江中部小、寒河江小をどうするかは決定しているわけではない状況です。

(学校教育課長)

よろしいでしょうか。その他ご意見ご質問ございますか。

(発言者C)

私は、中学校の統合の件に関してこれまでいろいろ検討されて、1校案のAか

Bがいいのかなと総合的に考えて思っています。部活動とかは、1校になると、いろんな部活が増えるかなと思いますし、生徒の選択肢が増えるかなと思います。一極集中でお金をかけられるということでメリットの方が大きいのかなと考えております。ただ、1つの中学校になることによって、デメリットとして寒河江市内での切磋琢磨する中学校がなくなるのは不安かなと思っていて、そういった中で教育委員会として他の市町村、村山地区、山形地区の中学校とどういう風に今後関わっていくのかとか、未来の展望として、寒河江市の教育委員会としてどう付き合っていくとか、1校になったときにどういったお付き合いをしていくのが不安になったところではありますが、そういったところはどのようなお考えかという質問ですが、よろしくお願いします。

(教育長)

ご意見ご質問ありがとうございます。今、1つ考えられるのは、寒河江市も他の市町もそうですが、1人1台のタブレット型のパソコンを配付していて、それを活用しているところです。例えば、社会科の授業するときに、村山や山形、庄内の学校とかと結んで授業するというのも考えられると思います。十数年前だと、そうしたことをやろうとすると、いろんな準備が必要で、年に何回かの行事的な感じで学校と学校を結んで意見交換することもありましたが、今はそれが割とスムーズにできるかと思えます。そうした環境が整いつつあるかなと思えます。そういったことでやっていけるかなと思います。西村山地区でいえば、寒河江市以外は中学校は1町1校になっていて、生徒数も減ってきているところではありますが、例えば、合同の行事であったりとかを計画していくと、お互いにメリットがあるのかなと考えているところです。具体的などは、それぞれの学校のなかでこういうことやったらおもしろいんじゃないとか、そういったことを考えていって実施していくということになると思います。

(学校教育課長)

ありがとうございます。その他ご意見ございますか。

(発言者D)

コロナ禍ということもあって、子どもが通っている学校は人数規模も大きく、学校で全校児童が集まって何かをすとか、保護者が見に行くとか、この2、3年に限って感じてしまったのかもしれませんが、自分の子ども世代で3校が1つに統合したときの1000人近い生徒規模を考えた時に、自分の子どもに活躍の場がどれだけあるか、個人的には不安に感じたというのが率直なところです。1校案と2校案であげていただいたメリットとデメリットを比べたときに、単純に丸の数を比べたときに2校案の方が1つ多いんだなと比較をしてしまったのですが、自分の子どもが中学校に在籍する3年間、その先々のさらに20年後という課題があるのかもしれませんが、1人1人の主体性を育む中学校生活でいろいろな経験をしてもらいたいときに、1000人規模ではたしてどれくらいわが子が成長できるのか考えて、2校案の方が私が経験した中学時代と同じようなことを経験上のサポートをしながら、見守っていけるのかと感じたと

ころです。なかなかその規模での学校運営が経験上のイメージがわからなくて、そのときに子どもたちを親として支えて、見守っていけるのかとか、これからの学校そのものが、自分が学生のころと全然違う学習が用意されていくという、いい面も含めてなんですが、そこまで具体的な学校の変わったときの姿が見えなくて、人数規模、学校規模だけで議論していくところではない議論を私自身ももう少し勉強したいかなと思ったところです。

(教育長)

心配されるのは当然だと思います。心配される点については、先ほど申し上げたとおり1校になった時はそうした心配な点をカバーしていくということが大事だと思います。私も河北中に勤務していた時、960名の生徒がいましたが、いろんな活動が、とてもダイナミックに行えて、とても感動的な文化祭、運動会等が実施されていきました。また、学年も320人くらいいるわけですが、修学旅行等であっても、そんなに問題なく対応できたなと思います。また、いろんな子どもたちがいるので、それぞれ刺激しあったりとか、人間ですので気が合う合わないということもあるわけですが、いろんな子がいるので自分と気の合う子どもたちも見つけやすいということもあったかなと思います。ただ、人数が多いので、例えば、学年が9クラスあったので、学年の全部のクラスの授業でるのは不可能になりますし、子どもたちも、どうしても多い人数だとなかなか自分からは活動しにくい子もいると思います。そうした子への対応もきちんと考えていかなければならないと思います。また、2校案となれば、4クラス、5クラスですので、よりお互いを知ることができるというメリットもあると思います。どちらにせよ、いい点と課題となる点はあります。いろいろご意見を伺いながら決めていくということになると思います。

(学校教育課長)

ありがとうございました。その他ございませんか。

(発言者E)

先ほどの質問にもあったのですが、小中一貫校の話の中で、学区の編制という話でなかなか難しいということだったのですが、このロードマップ上で今の現行の案でいくと、中学校が1校と陵東中跡地に5校が統合されたのが1校、寒河江中部小と柴橋小、寒河江小と南部小でどうなるかとなっていると思うのですが、建設費用とか敷地の問題とかあると思いますが、4校に編制されるという数であれば、中学校と小学校の一貫校2校という形、例えば、5校が1校となったものに陵東と陵西をとというのは、検討されたのかなと思ったのですがいかがでしょうか。

(教育長)

あり方検討委員会では、学区編成替えをしないということで、西部学区の小学校3校と陵西中での小中一貫校はどうかとの議論はされています。そうしても、これから6、7年後に西部学区の中学生は3学年あわせても90人くらいとな

って1クラスずつになります。規模が小さくなっていくということから考えると、西部学区での小中一貫校はなかなか難しいという結論にいたったようです。陵東と陵南としたときに、小中とあわせての一貫校となるとそれなりの大きな規模になっていくということ、小中一緒はどうなのかといういろいろ議論されたと思いますが、1つネックになったのは、学区編成だと思います。例えば、中学校の1校案、2校案についても、この説明会の中で陵南と陵東・陵西の生徒数が変わっていくのであれば、将来的には学区編成替えをして、陵南学区から陵東陵西の学区にという編制替えをしてもいいのではないかというご意見もいただいております。

(発言者E)

小学校の統合と中学校の統合は一緒に検討されているのでしょうか。

(教育長)

小学校の統合と中学校の統合は、いろんな面で絡んでくるので、両方とも考えながらという状況です。現在の計画での課題として、小学校を先に統合して中学校を統合するとなると、同じ子どもさんが小学校と中学校で統合を経験するのでストレスが大きいだろうとか、統合の時期を早くしたらどうだろうとか、小学校でいうと5校統合ではなくて、学年複数の学級にはならないけれど、陵西学区に1つ小学校を残してほしいというご意見もありまして、地域バランスを考えたときに、そうした案も考慮すべきとも思います。統合年度をどうするかということも様々に絡んでくることありますので、いろいろな面から検討しております。

(発言者E)

もう1ついいですか。建物なので耐用年数とかあると思うのですが、建物自体がこの時期までには直さなければいけないとか補強しなければいけないとか、それぞれの学校で分かっていると思うのですが。そういうのはありますか。

(教育長)

水回りですとか雨漏り関係とか劣化度調査はしております。そうしたことを考えると、50年を過ぎてくると、いろいろと改修が必要なところがでてくる状況です。コストの面についてもございましたが、参考例として高畠中は統合したときは700名弱くらいでしたが、50億円かかっています。3校統合となりますとそれよりもお金がかかるとは思います。国の補助として統合を伴う校舎の新築の場合は、1/2の補助があります。グラウンド等については1/3の補助があります。現在、詳しく調べていますが、単独で新しくすると補助は今の制度では難しい状況のようです。コスト面での計算も含めて、耐用年数と小学校の統合の仕方、中学校の統合の仕方も考えていかなければならないと思っております。

(学校教育課長)

その他ございませんか。

(発言者F)

他の方の意見で、大きくなると活躍の場が減るとのご意見があって、今でもそうなのかもしれませんが、活発な子どもとか、勉強以外でも生徒会活動で一生懸命な子が評価されて、引っ込み思案の子が評価されないとか、活躍の場が減って、活動しない子が評価されないで受験とかで不利益を被るとか、それが競争だということで、そればかりが取り上げられて競争で取り残されてしまう子が救えないという評価だと大変困るなと思っているので、今現在もそうかもしれませんが、そうした生徒1人1人のよさを見てあげて、評価してあげる仕組みが大事だと思います。受験する子どもだと内申などの話を聞くと、積極的な子どもが優先的で、消極的な子どもが救われないというのは大変かわいそうだなと思うので、そうした評価のあり方の検討というのも必要なのかなと、個人的な意見として思ったところです。

(教育長)

本当にその通りだと私もずっと思いながら教員をしてきたところです。目立つ子は活躍して、いろんな先生から頑張ったねという声かけが多くなります。でも、普通に頑張っている子の頑張りに、しっかり目を向けて評価していく、それぞれの子どもの良さをみて、声かけし評価していくことが大事だと思います。内申書でも、それぞれのよさや日頃の活動を評価していくことが大事だと思います。生徒会の役員をしているとか大会で活躍したというのも、その子の1つの評価ではありますが、それだけでなく、日頃の努力であったり行動であったりの良い点に目を向けて、評価をしていくということが大事だと思っております。

(学校教育課長)

ありがとうございます。その他ございますか。

(発言者G)

2年間検討されての案ですので、どの形になってもメリットを活かしてやっていただけるのかなと話を聞いていて思ったところです。部活動に関しては、私たちがやっていたときとは、部活動のあり方は相当変わってきていると話を聞いていて思いました。私の世代だと、運動部で強豪だと年間10日くらいしか休みの日がないとか、土日は練習試合で県外に行ったりするのが普通でしたが、その感覚では語れない状況かなと思って聞いていたところです。おそらく1校にするにしろ2校にするにしろ、やってみて5年間でロードマップを見直すということで、その辺を対応されるかなと思ったので、私個人としては1校で資源を集中した方がいいのではないかなと思って聞いておりました。陵南中は野球部が名門だったのですが、去年の入部者は1人しかいない。できない競技が相当数でくるかなと思って聞いていたので、これが全体のパイが増えれば子どもがさまざまな競技にチャレンジできるかなと思ったので、人数のスケールメリットが

あるのかなと思って聞いていたところでした。以上です。

（教育長）

ありがとうございます。今、おっしゃられた部活に関しては、昔とはまったく違ったものになっていく方向だと思います。私も剣道部の顧問をしていまして、休みはお盆と正月だけのような練習をしてきましたけれども、今後はそういったことではなくなっていくんだと思います。ある程度の人数がいれば、部活動に入らない子もいるでしょうけれども、入る子の人数も多くなるので、多くの競技等の部活動を設置できて、少なくとも平日は自分の選んだ部活で活動できると思います。先ほどありましたように、陵南中の野球部でも今年の新人戦は単独では出場できない人数で、朝日中学校と合同で出場したという状況です。他の西村山の中学校も河北中以外は150人前後の人数になっているので、部活動が難しくなっています。そして、この新しい部活動のあり方を考えたときに、今ある部が今後存続できるのかを心配している状況があります。今までは基本全員加入が原則で各学校でやってきましたが、今後の活動は子どもたちの様々な選択になってくるので、平日の部活動には入らない子も出てくると思います。人数が少ない学校では、例えばバレー部に入ったけども、人が集まらなくて練習が難しいなども想定されていて、そうした状況をどうしていくかが小規模の学校では、大きな悩みになっている現状だと思います。

（学校教育課長）

ありがとうございます。

（発言者F）

ふと思ったのですが、もし、就学中に大規模な災害などが起こった場合に、1つの中学校の場合は、どういう対応をとるのでしょうか。同じ場所に集めて、そこから避難経路というか、自宅に案内されるのか、スクールバスとなった場合に一気に出すことはできないでしょうし、そこら辺の展望を教えていただければと思います。

（教育長）

災害の種類によると思います。大雨で洪水の場合、大きな地震などの場合は対応が違ってくると思いますし、学校でそのまま待機した方がいいという場合もあるでしょうし、保護者の方に引き渡すといいますか、帰った方がいいということもあるでしょうし、その災害の状況に応じて対応していくということだと思います。大事なことは、こういう災害が起こったときには、これだけの人数がいるので、避難の仕方や対応についてマニュアルとして作り、見直しを図りながら、洪水に対する避難訓練、大地震があったときの避難訓練などをやっていかなければならないと考えているところです。

（発言者F）

マニュアルを作っていて、保護者の方に展開していただき、こういった

ときはこうあるべきだなどあると、安心して預けることができるかなと思いますので、よろしく願います。

(学校教育課長)

その他ございますか。

(発言者G)

放課後児童クラブは子どもの家の近くにあると思うのですが、例えば、小学校からの移動距離が遠くなったときに、どのような展開をされるのか気になったので教えていただければと思います。

(教育長)

小学校の場合は、放課後児童クラブのことは大きな問題だと思います。クラブに入っているのは低学年の子どもさんが多いので、説明会でも、西部地区で1つに統合した場合、今の案でいうと醍醐小学校に統合した場合に、高松と白岩の放課後児童クラブはどうなるのかというご質問をいただいています。保護者の方からは、統合したとしても高松、白岩の児童クラブを活かしてほしいというご意見をいただいております。放課後児童クラブについては、子育て推進課で検討していくわけですが、説明会でそうした意見が強いことは伝えておりますし、そういった面も考慮して検討してほしいと伝えているところです。例えば、放課後児童クラブがそれぞれの地域に残った場合は、帰りのスクールバスは放課後児童クラブに寄って、それぞれの乗り降りの場所に回ってということも考えられるかなと思っています。

(発言者G)

ありがとうございます。

(学校教育課長)

その他ございますか。

(発言者H)

長時間ありがとうございます。個人的には、先ほど小中一貫校の話がありましたが、陵南小中学校、陵東小中学校というのでも楽しいかなと思うのですが、それとは別で、要望が1つあります。どちらかというところの統合の背景には、学校の先生のなり手が少ないという部分も背景にはあると思っています。例えば、中学校の先生だと土日も出勤で、遅くまで部活を見ても残業代がつかないとか。教師が教師になりたいと思うような職場になるように、教師の方の環境改善に努めていただければと思います。なりたいという希望者が多ければ、それだけ質の高い先生も集まると思いますので、できればそちらもご検討いただければと思います。

(教育長)

教師のなり手不足については、本当にその通りですし、そういう風にしていかなければならないと思っています。例えば、来年度採用の山形県の小学校の教員採用試験の倍率は1.3倍でした。かつては10数倍が普通で、全国的にも高い方から4、5番目だったのですが、現在は下から2、3番目となっております。中学校も教科によっては、1倍ちょっとくらいしか志願者がいなくて厳しい状況です。それは、数年前、教員がブラックな職業だということが報道でも取り上げられました。長時間労働で体調を崩して長期の休みを取らざるを得ない人が増えたり、去年は、教員になって5年以内で辞められた方が30人にもなっているという状況です。結婚などで他県に行くなどの理由で辞められた方もいると思いますが、病気でとか気持ち的にもう続けられないと思って辞めた方もいると思います。今後、これまで以上に働き方改革をしっかりとやっていかなければならないと思っています。寒河江市では1か月の時間外勤務が80時間を超えた先生には産業医の先生とメンタルヘルスの面談をしてもらって、いろいろアドバイスを受けてもらっています。また、衛生委員会を作って、職場の労働環境の改善に努めているところです。先生方が生き生きしていないと、子どもたちも将来、教員になろうとは思わないと思うんです。教員を目指す人の理由を聞くと、小学校や中学校の時の先生に憧れたからという声が一番多いんです。憧れの教員であるということは、授業も他の活動もしっかりとやっているということだと思います。そうした教員が増えることが教育の質をあげることでもあると思います。そうしたことにも教育委員会としてはしっかりと取り組んでいますし、今後とも取り組んでいきたいと思っています。

(学校教育課長)

その他ございますか。予定の時間になりましたので以上で質疑を終了させていただきます。